

BOOK 本の紹介

ソーシャル・イノベーションとしての自然学校

西村仁志著 みくに出版(2013年3月)
定価1,800円(+税) ISBN978-4-8403-0498-6

「自然学校」という言葉が生まれたのは1990年代後半。それから自然学校を社会に根付かせる試みが、全国のいたるところで繰り返されてきた。そして今、自然学校の最先端を担う者は、地域の抱える持続可能性の問題と向き合い、解決を目指す社会変革者として活動している。本書は、自然学校の発展の過程を追ひ、今後の展望と課題を示した労作である。



アグリ・コミュニティビジネス

大和田順子著 学芸出版社(2011年2月)
定価1,800円(+税) ISBN978-4-478-7615-1280-4

「アグリ・コミュニティビジネス」とは、活力溢れる農山村の現場を訪れるうちに著者が辿り着いた、農林業とコミュニティビジネスを結びつけたコンセプト。農山村の資源を活用し、持続可能性や都市との交流力を高めることによって成立するとされる各地の多様な事例を、ビジネスモデルの分析と共に紹介し、新たな価値観を提示する。



スモールマート革命 —持続可能な地域経済活性化への挑戦

マイケル・シューマン著 毛受敏浩監訳 明石書店(2013年9月)
定価2,800円(+税) ISBN978-4-478-7503-3872-9

グローバル企業を優遇しその誘致に力を注ぎがちであったこれまでの価値観に対して、地域企業やコミュニティビジネスの優位性を検証することによって、地域主導型の経済活性化の可能性を説く。消費者・投資家・起業家・政策担当者・コミュニティ形成者など様々な視点からの分析を通じて今後の新たな潮流を示唆する、ウィットに富んだ一冊。



社会をよくしてお金も稼げるしくみのつくりかた

小暮真久著 ダイヤモンド社(2012年10月)
定価1,500円(+税) ISBN978-4-478-02097-5

近江商人は「売り手よし、買い手よし、世間よし」を経営哲学とした。著者は自らが起業したNPO、テーブル・フォー・ツーの経験から「出資者」と「提携・協業者」を加えた5者にwinの累乗を作ることがNPOのみならず、企業にも求められると説き、要素ごとに具体例をあげて解説している。パートナーシップに行き詰まりを感じたときにヒントが得られる。



地域活性化ビジネス：街おこしに企業の視点を活かそう

岡田 豊著 東洋経済新報社(2013年3月)
定価1,890円(+税) ISBN978-4-4922-1207-3

これまで国や地方自治体が主導で進めてきた地域活性化への企業の関わりを、豊富な事例で紹介。著者の一人による「イチ(商店街マーケット)、マチ(地域コミュニティ)、トチ(再開発を含めた立地)」の理解の混同の危険性についての指摘には、はっとさせられる。ビジネス感覚を持ち、地域活性化を捉えなおすヒントがつかめる一冊。



僕たちは島で、未来を見ることにした

株式会社 巡の環(阿部裕志・代表取締役/信岡良亮・取締役)著 木楽舎(2012年12月)
定価1,890円(+税) ISBN 978-4-8632-4056-8

島根県海士町。全国各地からIターンまたUターンする人が集まる、いま、最も注目を浴びている超少子高齢化の過疎の離島。この島に移住して、仕事をつくりだしていくことを選んだ、「田舎ベンチャー」起業家の物語を追う。「(海士町のIターン者は)田舎に逃げに來たのではなく、攻めに來ている。」という、海士町長の言葉が、ずしりと響く。

